



【出席者】
 (向かって左から)
 文科Ⅱ類
 西原 啓太さん
 (世田谷学園高校卒業)
 理科Ⅱ類
 高田 修太さん
 (開成高校卒業)
 文科Ⅰ類
 瀬古口 拓也さん
 (海城高校卒業)
 理科Ⅰ類
 小松 侑太さん
 (麻布高校卒業)
 理科Ⅱ類
 亀井 亮佑さん
 (筑波大学附属駒場高校卒業)
 理科Ⅰ類
 森田 悠介さん
 (筑波大学附属駒場高校卒業)

【司会】
 横浜校校友会責任者
 山口 拓司 先生(左)
 クノーブル代表
 中山 伸幸 先生(右)

勉強は「集中力」と「知的好奇心」 「好き」という気持ちを大切に、 受験へのモチベーションを高めよう

毎春、サピックスにはたくさんの合格の知らせが届きます。中学合格ばかりではありません。「希望する大学に合格しました」と、すっかり成長した先輩たちがかつての校舎を訪れてくれることもあります。今回はそんな先輩たちのなかから、クノーブルでも学び、東京大学に進学した6人に集ってもらい、大学のように、サピックスで学んだことが大学受験にどう役立ったのか、そして、かぎを握る英語の勉強法などについて聞きました。

東大の魅力は選択肢の多さ！
 多彩なゼミが用意されています

山口 皆さん、このたびは東京大学へのご入学、おめでとうございます。すでに大学生活も2か月ほど過ぎましたが、実際に通ってみて、東大の印象はいかがですか。高校時代には物理オリンピックでも活躍した森田君からどうでしょう。

森田 じつは、入学前は「授業についていけるだろうか」などと考えていましたが、いまのところ授業の進度もそれほど早くなく、大丈夫です。ただ、数学や物理など、90分の授業は長いと感じますね。

小松 東大は放任主義。自主性が求められます。森田 物理で力学の自主ゼミを週2回取っています。おもしろいですが、2年生もいっしょなので、ついていくのがたいへんです。

高田 英語のレベルが高くて驚いています。外国人の先生によるすべて英語の授業があるのですが、初回にいきなり科学的テーマについてレポートを書いてくるよう求められました。

翌週はレポートの書き直しとともに書き方の指導。高校までの授業との違いを感じました。英文の雑誌「Nature」を配られて、読まされたり



高田 修太さん

「復習を通じて知識を定着させる。
 中学受験でも大学受験でも大事なことです」

もします。学期末のファイナルレポートでは、だれもやっていない、オリジナルの科学的なレポートの提出が求められるんですよ。

中山 入学前に英語力の土台を作っておくことが大切です。

西原 うちのクラスも英文の原書を毎回40ページくらい読む授業があります。また、一つのテーマを理解するために、新聞はもちろん、関連の書籍を10冊も20冊も読む必要があります。中・高時代は課題がある程度設定されていましたが、大学では課題そのものを自分で



見つけることが求められます。それが大きな違いです。たいへんさが違います。

亀井 専門的な科目にはおもしろいものがあるいろいろあります。ぼくが受けている分子生物学の授業はオムニバス形式で、それぞれの先生が自分の研究成果を教えてください。ぼくらがどれくらい知識レベルにいるのかを探りながらも、先生の興味分野について熱く語ってくれ、本当におもしろいです。

瀬古口 ぼくも基礎科目でもおもしろいテーマに出合うことができました。たとえば、観光がその土地の文化にどのような影響を及ぼしているのかについて考える「観光人類学」という授業があるのですが、こんな学問があるのかと、とても興味深く受けています。

西原 東大はとにかくゼミが多彩です。シラバスもいてねいに作られているので、授業を選ぶ際にも役立ちます。その意味では学ぶ環境が整っていると思います。

高田 西原くんが言うように、大学は自分で勉強するところだと実感しています。また、ぼくはある私大の医学部も合格したのですが、私大の場合、将来は医師の道しか見えてきませんね。対して東大は教養学部があるので、将来の選択肢も広い。入学しても、それを実感しています。

森田 確かに東大は分野間での行き来が自由だと感じます。ぼくもいま、物理か生物かで迷っているのですが、入学する時点で専攻が決まることの多い他大と違い、東大はじっくり考えることができるので助かります。

亀井 ぼくも生物学的な分野に進もうとは決

めています。同じテーマでも、薬学から、理学から、あるいは医学からと、さまざまなアプローチの方法があります。どの学部に行ってもどんな研究をするか決断を急がされないのはいいですね。じっくり選べるのは東大の良さだと思います。

センター試験はバランス良くモチベーションを保つこと

山口 では、時間を少しさかのぼって大学受験についてお聞きしましょう。

瀬古口 大学受験では、センター試験前がいちばん勉強しました。

森田 ひたすら過去問をやって「早くセンターの日が来ないかな」と。

西原 待ち遠しいと言うか、いらいらすると言うか。「とっとと来い！」という感じ(笑)。

瀬古口 ぼくは12月のセンター模試の結果が良くなって、焦りました。同時に「残り1か月！」とお尻に火が付き、社会や国語をひたすらやりましたね。

高田 たとえば2次試験

に関係ない政治・経済の勉強も、今後の日常生活に役立つはずだと、自分を高める知識として身に付けようと考えました。

森田 センター試験で



瀬古口 拓也さん

「いまのうちにしっかりと土台を作っておくと、後が楽。がんばりましょう」



丸暗記しないサピックス方式は 大学受験まで生き続ける

中山 大学受験は中学受験と比較していかがですか。また、小学部での勉強は大学受験にも役立ちましたか。

西原 受験勉強だけでいえば、大学受験のほうがたいへんでした。

森田 小学生のときは「勉強しかない」という感じ。ひたすら勉強に集中していましたが、中・高時代は部活動など勉強以外のことがいろいろありますから、切り替えが大事です。

瀬古口 ほとくの場合、中学受験では休憩した記憶がないですよ。SS特訓なんて朝から夕方まででしょう。本当に勉強していましたね。でも、懐かしいなあ。

高田 サピックスは復習を大事にしますよね。学んだ知識は復習を通じて確実に定着させる。これは中学受験でも大学受験でもとても大事なことです。

一同 そう、復習は大事ですね。
西原 サピックスに入室したときに感じたの



グノーブル代表
中山 伸幸先生

は、集中できる人がとても多いということでした。ふだんはのんびりしているように見えるのに、いったん勉強しはじめると、話しかけてもそれに気がつかないほど集中する人がいます。東大にもそういう人が多いのはおもしろいですね。

瀬古口 中学受験を通じて勉強する習慣が身に付きました。サピックスで勉強が好きになり、中・高でもその意識を持ち続け、そのまま大学まで進むことができたように思います。

高田 サピックスの良さは「丸暗記しない」ところ。理科も社会も根本から学ぶので、応用が利きます。丸暗記しないサピックス方式の学習法は、東大に入つたいまでも自分の土台になっていると感じます。一方、サピックス生は遊びと勉強の切り替えがうまいと思います。母校の開成でも、高3生は5月の運動会まで全力投球し、終わると大学受験にスイッチしますが、何事にも集中してこそ、そのあとの切り替えもうまくいくのではないのでしょうか。

山口 うれしい発言が続きますね(笑)。皆さん、サピックスでの勉強はおもしろかったですか。

高田 おもしろかったです。授業の日がとても楽しみでした。サピックスは詰め込み方式ではなく、理解させてくれる授業なので、勉強が好きになる環境だと思います。それにサピックスでは予習はしませんよね。はっきり言って小学生には予習は不要です。復習させ



亀井 亮佑さん

「解ける喜びや新しいことを知る喜びを感じながら、勉強を楽しんでください」

は各教科のモチベーションをバランス良く保つことは大きなポイントですね。「自分は倫理が好きだ」と思い込むなど、方法はさまざまですが、「どうせ、センター試験が終わったらいらなくなる科目なんだよな」などと考えていた人は足をすくわれます。その意味で想像力も大事ですよ。

高田 「ソクラテスはすごいやつなんだ！」と、自分に言い聞かせながら、教科書を読んでいました(笑)。

西原 とにかくセンター試験は科目にムラがあるとダメです。そう考えて、ぼくはとくに理科分野をがんばりました。



横浜校校舎責任者
山口 拓司先生

るサピックスのやり方は理にかなっていると思います。

西原 サピックスの先生は授業がうまい！生徒の気持ちを引き込む授業をしてくれるし、雑談もおもしろくてためになる。飽きない授業でした。

森田 クラスに活気がありました。怖い先生もいたけど、勉強に集中できる雰囲気がありました。あの活発さや、仲間たちの頭の回転の速さは、学校では味わえないもので、とても好きでした。

亀井 モチベーションを高め、競争心を上手に高める仕掛けがありましたよね。たとえば算数の授業に高校の入試問題を使ったことがあります。向上心がとても刺激されました。スピーディで、中身の濃い授業ばかりでした。

高田 競争といえば、「サピシール」はいまでもありますか？ あれは魅力的でしたね。クイズ形式で問題を出して、できるとシールをくれた先生もいましたが、そのクイズ形式の問題を自分のメモノートにまとめて、中学受験直前に見直した思い出があります。自分に足りないところをメモしておく習慣は大学受験はもちろん、いまでも役に立っています。

中・高時代は学校を中心に 双方向の授業をしてくれる塾を

山口 ところで、皆さんは中学に入学後、塾にはいつごろから通いはじめたのですか。大学受験でもやはり塾は必要ですか。

高田 中学の入学式の日、校門の前で、進学塾の人たちからたくさんピラをもらうんです。これに煽られて、ほくも「みんな行くから」という消極的な理由で、東大進学で有名な塾に入りましたが、1か月もしないうちにやめました。サピックスとは全然違うんです。このやり方には、ちょっとついていけないという感じでした。結局、中1の冬から中山先生の塾に通いましたが、中学時代は受験を意識せずに、勉強が楽しく通っていたような感じでした。

小松 ほくは兄の影響もあり、学校で落ちこぼれないようにということで、中1の春から同じ塾に通いはじめました。

西原 大学受験が具体的に視野に入ってきた、気持ちが高まってからでよいのではないかと考えたので、ほくの場合、中3から通うようになりました。

瀬古口 ほくは中3のとき、学年で最低点を取って「やばい！」と思ってからです（笑）。塾は大学受験のためというより、学校の成績を伸ばすことが優先でした。

西原 通っていた世田谷学園からは毎年4、5人が東大に入っていたので、まずは学校の

成績で5位以内に入ることをめざしました。このため、塾も受験のためというより、学校の勉強を意識していました。結果的にそれで良かったと思っています。

亀井 ほくは中2の夏に、まず数学の塾に入りました。そして、高1の春から中山先生と行村（真治）先生のもとへ。塾に行くようになったのは、不安を解消するためでもありません。自宅学習では何をどうすればよいのかわからなかったのです。

森田 数学の塾は大学受験を意識して決めました。一方、英語は好きではなかったため、塾に頼ろうという思いで通い続けました。

中山 皆さん、グノーブルに通っていたいたのですが、中・高時代の塾選びのポイントを教えてください。

西原 やはり「楽しい塾」です。楽しくないと通わなくなります。課題が多くて、おもしろければ気になりません。

高田 中・高の勉強にも「導く人」が必要だと思います。その点、たとえばグノーブルの英語は、単に問題を解くのではなく、英語力そのものを鍛えるやり方が学べますよね。このように、自分でやるための方法を導いてくれるのが良い塾だと思います。

亀井 授業を受けていても、おもしろくなければいけません。一方的に知識を押し付けられるのは正しい勉強



小松 侑太さん

「受験勉強ではあまり自分を追い込まず、
視野を広く持って臨んでください」



社会に出てからも語学力は必須 英語に限らず「音読」が有効です

中山 グローバル化が進む昨今、英語については中・高時代にどんな勉強をしておくとうまいと思いますか。

高田 高校までの英語と大学の英語では本当にレベルが違うなと感じます。

西原 大学では英語を学ぶ授業ではなく、英語を使った授業を受けなければなりません。ですから、中・高時代はまず、英語に興味を持つことが大切ではないでしょうか。また、受験を超えた目的をはっきりさせておくことも必要でしょうね。

森田 英語では、グローバルで盛んにいわれていた「音読」が大事だと痛感しました。読むスピードが上がって、確実な内容把握もできます。

中山 最近でも、関係代名詞が入っている文章などでは、いまだに返り読みで指導しているところがありますね。これに対して「音読」は、必然的に語順で内容を把握することになります。リスニング試験の場合、返り読みの習慣が付いていると、おおよっぱな理解になってしまいます。

西原 冬はお風呂で音読していました。お勧めです。

中山 文法の基礎を固めてから、「返り読みしない」「耳を鍛え音読する」「単語集の丸暗記はしない」といったやり方で、皆さん、内容把握の力も速読力もとても伸びましたね。

瀬古口 2次試験では30分も早く終わってしまいました(笑)。

高田 大学では、第二外国語で中国語を履修しているのですが、中国語も音読です。ネイティブの先生の音声に続いて何百回も発音するのです。耳が慣れてくるので、いやが応でもしゃべれるようになるそうです。

西原 音読は英語に限らず、語学を学ぶうえでとても有効ですね。それに音読して音になじむと、それが記憶につながるそうです。

瀬古口 ぼくは、短い文章をたくさん覚えることも心がけました。

中山 雑誌や本を読んでいて気に入ったフレーズがあったら、メモしておき、時折音読していると、いろいろなシーンで使えて役立ちますよ。

小松 これは受験に通じる部分ですが、英語では和訳に無駄な時間をかけないこともポイントだと思います。

亀井 塾によっては毎日何ページも和訳を書かせるところがありますが、翻訳家をめざすわけではないので、こなれた日本語に和訳できなくても、きちんと意味が理解できていれば十分なのではないでしょうか。

西原 確かに東大の入試では、直訳したのでは意味が通じないような英文が問題として出されたりしますが、求められているのは、英語の一つひとつの単語を逐一正確に訳すか



森田 悠介さん

「サピックスの活気、仲間たちの頭の回転の速さ。大好きでした」

はなく、書き手が何を伝えたいかという内容を把握ではないでしょうか。だから、まず英語を英語として理解して、それから日本語に置き換えるようなやり方のほうが、無理がないように思います。

山口 なるほど。中・高時代は、実社会で必要とされる「生きた英語」の下地づくりが大切なことですね。そのためには英語の音に接し、音で学ぶ必要があるのだということがわかりました。

**育まれた「知的好奇心」が
これからの道を切り拓いてくれる**

山口 最後に、あこがれの皆さん方に続けと、これから中学受験に臨むサピックス生に向けて、メッセージをお願いします。

西原 ぼくが受験を通して身に付けたのは、自分を支えてくれている周囲の人々への「感謝」の気持ちです。中学受験では第一志望校、第二志望校に不合格となり、大学受験でも浪人しました。正直言って、つらいことが何度もありました。そんなとき、気づくと家族や塾の先生がそばにいてくれました。中学受験で不合格が続いたときに、サピックスの先生からもらった励ましの電話はいまでも忘れられません。人は一人では生きられません。だから、つらいときには机から目を上げて、自分を支えている人を感じてください。そうしたら、また、がんばれます。

高田 受験に限らず、常に「好奇心」を持って勉強してほしいです。そのために知識分野については、すぐに覚える環境づくりをしましょう。地図帳や辞書を手元に置き、世界地図や日本史年表を貼っておくなど、工夫してください。それから、受験勉強はとにかく「復習しろ!」と仰います。これは大学受験でも同じです。いくら柔軟な頭でも、覚えたことは時間がたつにつれて抜けていくもの。覚えたことはその日のうちに復習する癖



を付けるとういと思います。

瀬古口 小学生でも、覚えるべきことは声に出して覚えましょう! つまり「音読」ですね。教科書をシャウトしながら勉強するといですよ(笑)。受験勉強を通じて、いまのうちにしっかりと土台を作っておくと、その後が楽なので、がんばりましょう。

森田 多くの場合、大学受験はたいへんでしたが、中学受験では楽しく勉強することができました。というのも、新しいことを知ること、体験することがとても楽しかったからです。サピックスはそうした「知的好奇心」を伸ばしてくれる塾ですから、勉強が好きな気持ちを大切に、受験へのモチベーションを高めてください。

小松 中学受験が人生のすべてではありません。あまり自分を追い込みすぎず、視野を広く持つて臨んでください。ただし、勉強するときはストイックな姿勢で!

亀井 解ける喜びや新しいことを知る喜びを感じながら、勉強を楽しんでほしいと思います。その点、サピックスはとても良い塾です。サピックスの環境で培った「集中力」と、楽しい授業のなかで育まれた「知的好奇心」は、

これからの道を切り拓いていってください。がんばってください。

山口・中山 今日には役に立つお話をどうもありがとうございました。



西原 啓太さん

「つらいときには机から目を上げて、
自分を支えている人を感じてください」